2021年度

地域の課題解決事業
成果報告書

「高度人材育成」「地域活性化」をオール大分で取り組む

おおいた地域連携プラットフォーム

おおいた地域連携プラットフォームは、
産学官が協働（オール大分）で
大分県の人的資産（地域資産）の最大化と有効活用を図ります。

目　次

1　ごあいさつ
2　2021年度実施事業一覧
4　大分県と県内高等教育機関の連携による地域課題解決事業の成果
7　実践型地域活動事業の成果
20　実践型地域活動事業　参加学生等のアンケート集計結果
22　地域の課題解決事業成果報告会及び優秀賞者発表
24　実践型地域活動事業のひとこま

写真「IoT による圃場データ収集とその活用」より（臼杵市野津町）

ごあいさつ

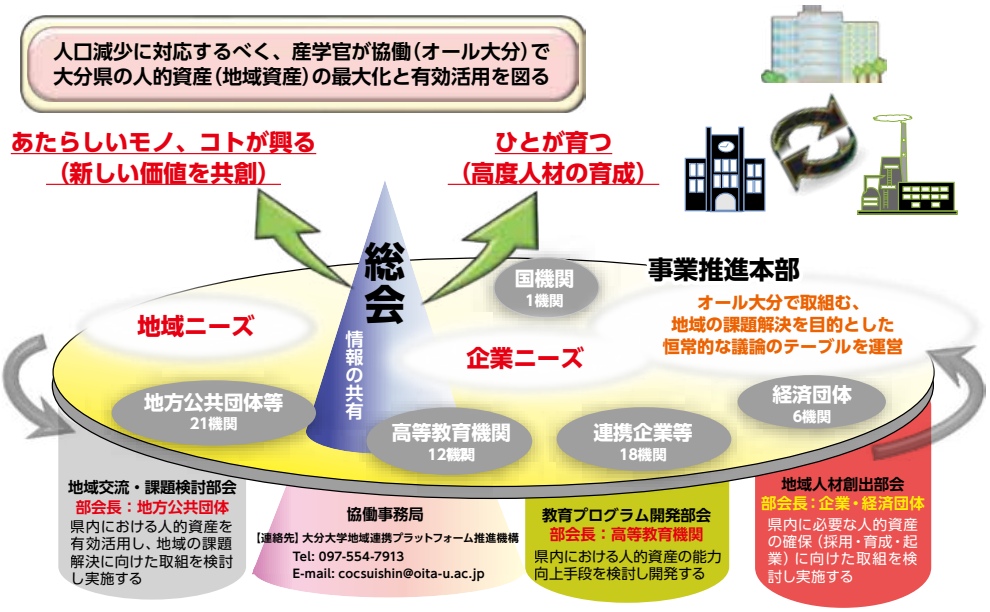
おおいた地域連携プラットフォーム
事業推進本部　本部長
大分大学
理事、副学長
地域連携プラットフォーム推進機構長
藤井　弘也

おおいた地域連携プラットフォームは、大分県内の産業界、高等教育機関、地方公共団体等の各事業協働機関が協働及び連携し、恒常的な議論の場を設置するとともに、それぞれの特色と強みを活かし、地域ニーズを踏まえた高度人材育成や地域活性化のための事業等にオール大分で取り組むことにより、地域における課題解決やイノベーションを創出し、もって地方創生につなげることを目的としています。

この「２０２１年度地域の課題解決事業成果報告書」は、教育や産業振興、医療・福祉の充実、地域活性化など多様な地域課題に対応するため、大分県と県内高等教育機関が連携して実施した地域課題解決事業３件と前身の「大学等による『おおいた創生』推進協議会」から継続している、学生による実践型地域活動事業１３件の報告書です。今年度は７つの大学、短期大学から教員や３００名を超える学生が参加しました。新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を講じながら、県内の様々な地域に出向いて、地域の実情を知り、課題解決策を提案しました。地域課題には、限られた期間内で解決できるものは少なく、長期的・継続的な支援活動が必要とされるものや、学生が地域の中で課題解決のできる人材として育っていくことで将来的な解決につながるものなど、様々な形があります。これを足掛かりとして、県内のあらゆる課題に産学官が連携し、大分地域の活性化に向けて活動していきたいと考えています。

本事業の実施にあたり、ご協力、ご支援いただいた地域の皆様、関係者の皆様に心より御礼申し上げるとともに、引き続きのご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

おおいた地域連携プラットフォーム



事業協働機関

（高等教育機関）　大分大学　大分県立看護科学大学　日本文理大学　別府大学　立命館アジア太平洋大学　大分県立芸術文化短期大学　大分短期大学　東九州短期大学　別府溝部学園短期大学　別府大学短期大学部　大分工業高等専門学校　放送大学大分学習センター　※学校コード順

（国機関）　大分労働局

（地方公共団体）　大分県　大分市　別府市　中津市　日田市　佐伯市　臼杵市　津久見市　竹田市　豊後高田市　杵築市　宇佐市　豊後大野市　由布市　国東市　姫島村　日出町　九重町　玖珠町　大分県教育委員会　大分県産業創造機構

（経済団体）　大分県商工会議所連合会　大分県商工会連合会　大分県中小企業団体中央会　大分県経営者協会　大分経済同友会　大分県中小企業家同友会

（連携企業等）　(株)オーイーシー　(株)大分銀行　大分県信用組合　大分交通(株)　(有)大分合同新聞社　大分信用金庫　大分みらい信用金庫　(株)オーシー　九州電力(株)大分支店　三和酒類(株)　社会福祉法人新友会．(株)地域科学研究所　東京海上日動火災保険(株)大分支店　(株)トキハ　日本政策金融公庫大分支店　(株)豊後企画集団　(株)豊和銀行　柳井電機工業(株)　※50音順

2021年度 実施事業一覧

大分県と県内高等教育機関の連携による地域課題解決事業

大分県との連携により、「地（知）の拠点」としての大学等（大学、短大、高専）が持つ研究開発機能やシンクタンク機能を活用し、教育や産業振興、医療・福祉の充実、地域活性化など多様な地域課題に対応する事業

No.	事業名等	連携機関等	頁
1	**大分らしい和牛肉生産流通戦略事業** 県産牛肉の簡易分析・測定等により、大分らしい和牛肉の特徴を探求し、「美味しさ」・「肉の高付加価値化」を目指した改良及びおおいた和牛の生産拡大を目指す。	大分大学理工学部 別府大学食物栄養科学部 大分県農林水産部畜産技術室 大分県産業科学技術センター	4
2	**カキ殻のリサイクル手法の確立** 産業廃棄物であるカキ殻のリサイクル手法について、コンクリートや培養土、生分解性容器の材料としての活用方法を確立する。	日本文理大学工学部 大分大学理工学部 大分県農林水産研究指導センター 水産研究部	5
3	**外国人材の受入促進に向けた施策提案** 2045年までに大分県の在住外国人が現状の約 1 万 3 千人から 10 万人にするための施策を学生の視点で提案し、大分県の経済・社会活力の維持・発展を図る。	立命館アジア太平洋大学 大分大学 大分県企画振興部国際政策課	6

実践型地域活動事業

大学等の教員が企画し、学生と共に地域に直接出向き、地域課題等の解決を図る事業
活動を通じて学生が地域課題に気づくこと、課題解決を図ることで地域に貢献すること、学生との交流を通じて地域が活性化すること、また、学生の地域への愛着を深めることをねらいとしています。

No.	大学名	事業名	代表者	関連地域	頁
1	大分県立 看護科学大学	看護学生による情報通信技術を活用した遠隔予防的家庭訪問実習 ～ コロナ禍での長期自粛生活による高齢者のフレイル予防 ～	看護研究交流センター 助教　篠原　彩	大分市 （富士見が丘団地） （野津原地区）	7
2	大分短期大学	地域資源（ヤブツバキ）を活かした 佐賀関地域の活性化	園芸科 教授　吉野　賢一	大分市 （佐賀関）	8
3	日本文理大学	佐伯市の水産事業者との連携による新ビジネスモデル模索プロジェクト ～ 学生目線による佐伯市水産業の魅力発掘・創出の実践 ～	経営経済学部 教授　山内　勝義	佐伯市 （主として蒲江地区）	9
4		三重町市場通り活性化のための 光環境改善ワークショップ	工学部 助教　江越　充	豊後大野市 （三重町）	10

No.	大学名	事業名	代表者	関連地域	頁
5	日本文理大学	舞子浜緑地リビング化プロジェクト＃２	工学部 准教授　木村　智	大分市 (舞子浜緑地一帯)	11
6		地方創生のための学生目線による 地域企業リクルートビデオ制作プロジェクト	工学部 教授　小島　康史	大分市	12
7	別府大学	ひじ町フットパス 新ルート「寺社めぐりコース」の開拓	文学部 准教授　小嶋　紀博	日出町	13
8		野津原方言調査会と学生との学術的交流機会の創出 ～『野津原方言集』20巻の電子テキスト化と方言研究を通じて ～	文学部 教授　松田　美香	大分市 (野津原)	14
9	別府大学 短期大学部	新規発酵調味料「ととのみそ」の利用開発による 地域の振興	食物栄養科 教授　岡本　昭	津久見市 佐伯市	15
10	立命館アジア 太平洋大学	亀川商店街再活性化計画策定事業	アジア太平洋学部 教授　須藤　智徳	別府市 (亀川商店街)	16
11	大分大学	きたく部 2021 拡張版	教育学部 准教授　清水　良彦	大分市 (稙田地区)	17
12		IoT による圃場データ収集とその活用	理工学部 教授　大竹　哲史	臼杵市 (野津町)	18
13		大分観光バーチャル体験プロジェクト２０２１	理工学部 教授　古家　賢一	由布市	19

大分らしい和牛肉生産流通戦略事業

大分大学理工学部 / 別府大学食物栄養科学部 / 大分県農林水産部畜産技術室 / 大分県産業科学技術センター

大分らしい和牛肉生産流通戦略事業の概要

○参加機関：
大分大学・別府大学
県（畜産技術室・産業科学技術センター・畜産研究部）

【背景・目的】

和牛肉の生産現場では、枝肉をより重く、より脂肪交雑（サシ）を高める改良を進めてきたが、近年の消費者ニーズとして赤身肉志向の高まりや、流通側のニーズではサシ以外の部分（枝ぶり、食味）の改善が求められ始めている。今後の肉用牛業界には、流通・消費ニーズを取り入れた、サシ重視ではなく、食味や枝ぶりを重視した改良が必要である。

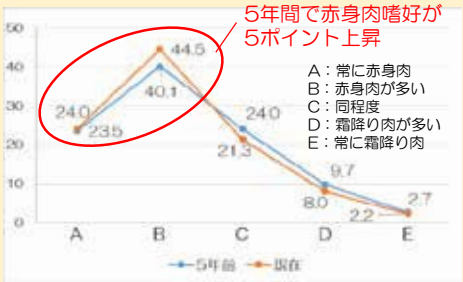
また、大分県の子牛市場においては、県外種雄牛産子が8割以上を占めていることに加え、上場牛の6割以上が県外へ流出しており、このままでは県内の子牛市場の独自性が薄れ、市場価値の低下を招く恐れが出てきている。

これらの背景により、生産から流通、消費までが一体となった、本県独自の生産流通対策を進めることが重要であり、関係機関・団体と合意形成をしながら、将来を見据えた戦略的な対策を講じていく。

○脂肪交雑基準（BMS No.）

近年飛躍的に上昇

○赤身肉と霜降り肉の購入頻度
（日本政策金融公庫調査より）



消費者は赤身肉志向へ変化

○卸売業者の求める牛肉

①**脂のしつこくない肉が良い**
→オレイン酸

②**モモ抜け、ロース芯のハリがよく枝振りのよいもの**
→歩留まり 74 %以上欲しい

③**近年では和牛らしい味も重視**
→和牛香、旨み(グリコーゲンなど)

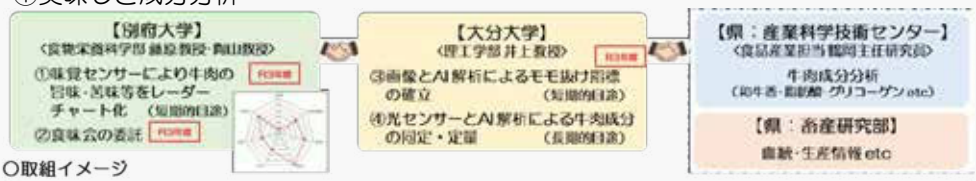
歩留まりと枝ぶり、食味の改善必要

【事業内容】

①和牛肉の美味しさ成分の分析
②商品価値（枝ぶり・歩留り）の高い和牛肉生産の調査
③本県ならではの“大分らしさ”にこだわった牛群の整備

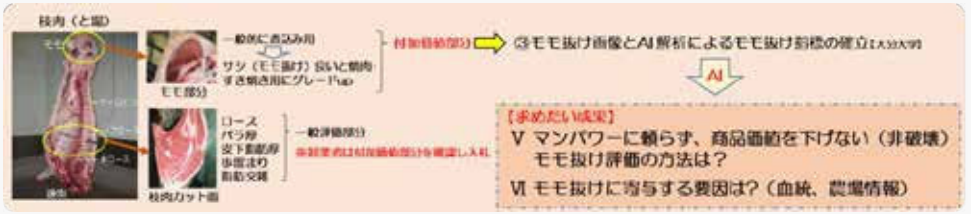
※事業内容については、有識者（大学教授）を委員長とし、生産者団体、流通団体、消費者団体からなる「大分らしい和牛肉生産流通検討委員会」に報告、合意を経て進めていく。

①美味しさ成分分析



○取組イメージ

②商品価値の高い和牛肉生産の調査



牛の改良方針へ反映
「美味しさ」
「枝肉の高付加価値化」
「大分らしさ」

③“大分らしい”牛群の整備

血統：父･･･大分県に縁のある種雄牛（東豊系、藤良系、龍門系）
母･･･大分県に縁のある母牛（系統雌牛；現存 1,800頭弱）

造成コンセプト：生産から流通、消費までをオール大分とするための基本となる種雄牛
脂肪交雑重視ではなく、赤身部分の美味しさの改良を行うために造成

カキ殻のリサイクル手法の確立

日本文理大学工学部 / 大分大学理工学部 / 大分県農林水産研究指導センター水産研究部

Oystershell Mortar Project

カキ殻を細骨材の代替材料として使用した
モルタルの諸特性に関する研究

日本文理大学　瀧水康に　吉川優夏

1　大分県のカキ殻問題

養殖量 140t

大分県では年間約140tものカキが養殖
副産物として約114tものカキ殻が産出

問題点
1　保管場所の不足
2　肥料以外の有効的な使用方法がない

2　カキ殻の利用方法

粉砕後のカキ殻

問題解決策の１つ
カキ殻を建築材料として使用する！
⇩
カキ殻を細かく砕く！水でカキ殻を洗う！
モルタルに使用する
細骨材の代替（砂のかわりの）材料とする

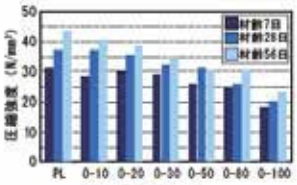
3　各種実験

- ○カキ殻の粉砕
- ○カキ殻の洗浄
- ○圧縮強度試験
- ○割裂引張強度試験
- ○乾燥収縮ひずみ測定
- ○吸水量測定
- ○密度測定
- ○塩化物イオン量測定

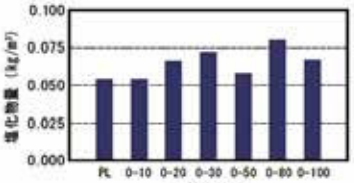
etc

モルタルの調合イメージ

4　試験結果



圧縮強度試験結果



塩分含有量

☑ 体積置換率 30％までは強度に期待ができる！
☑ カキ殻は洗浄することで塩分含有量を減らすことができる！

5　チューリップ栽培

球根植え付け　カラーモルタル

脱型した型枠

球根の生育の様子
（左：モルタル鉢、右：カキ殻混入土を入れた鉢）

カキ殻を混ぜたモルタルで作製した鉢で
チューリップを育ててみた！

（鉢）
1　モルタルに洗浄したカキ殻を混入
2　モルタルに未洗浄のカキ殻を混入
3　通常のモルタル
4　カラーモルタルを使用
（土）
1　通常の土
2　未洗浄のカキ殻を混入した土

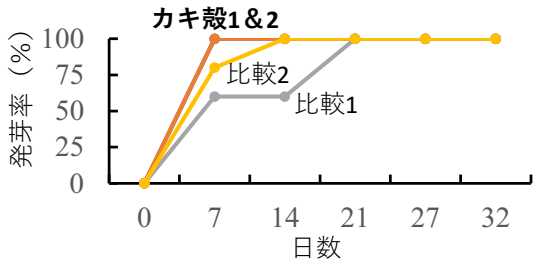
鉢と土を組み合わせ６種類　14個の鉢を作製
⇩
☑カキ殻を混ぜた方が球根の生育に影響を与える
☑今後の生育にも期待し観察を続ける！

2021年度　地域の課題解決事業成果報告会資料概要

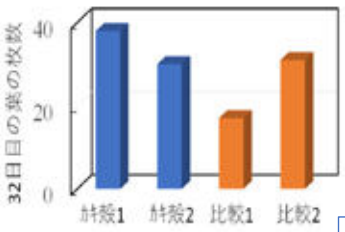
OITA UNIVERSITY

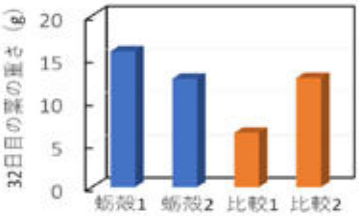
カキ殻の有用性
～カキ殻と廃ホタ木の栽培用土の可能性～

大分大学理工学部応用化学コース　氏家誠司（seujiie@oita-u.ac.jp，高分子科学・複合材料科学）



小松菜の発芽：カキ殻＆ホタ木を用いた方が発芽が早い





＊葉の大きさもカキ殻＆ホタ木を用いる場合が大きい

小松菜の生育：カキ殻＆ホタ木を用いた方が葉の枚数，総重量とも多い

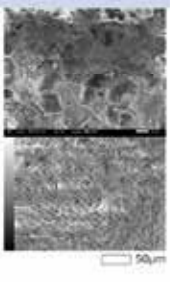
保水性（水分保持率）

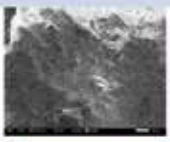
用土	カキ殻＆ホタ木	園芸土
水分保持率（土の重さに対する水の割合）	276％	63％

＊園芸土にも木質片が入っているが，ホタ木ほど多孔体でない

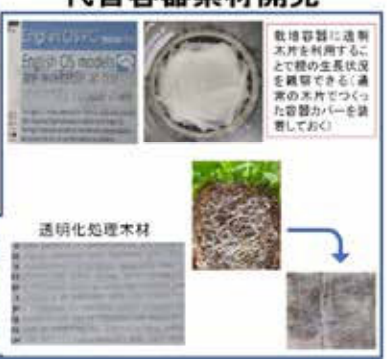
＊微細化したカキ殻も多孔質表面をもつ

＊「カキ殻＆ホタ木」を土として用いた場合には，少ない重量で多くの水分を保持できる





天然素材ベース植木鉢代替容器素材開発



まとめ

「カキ殻＆廃ホタ木」を植物栽培用土として利用できることを示した．

「カキ殻＆廃ホタ木」を利用した場合，一般の園芸土よりも発芽が早く，生長も早い．

「カキ殻＆廃ホタ木」は，園芸土より軽く，保水率がとても高い．

問題点として，「カキ殻＆廃ホタ木」の場合にはリン系および窒素系成分を他の廃材などで補う工夫が必要である．科学的手法の利用でさらに多くのカキ殻の利用方法の拡張が可能である．

外国人材の受入促進に向けた施策提案

立命館アジア太平洋大学 / 大分大学 / 大分県企画振興部国際政策課

大分県地域連携プラットフォーム推進事業

多文化共生の推進に向けた施策提案

課題	人口減少が続く中、経済・社会活動維持のために多くの外国人材が必要（県内現状：約13,000人）

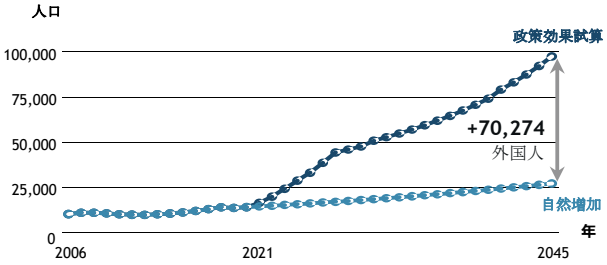
取組①（ＡＰＵ）

２０４５年までの大分県の在留外国人がどう増減するかシミュレーション、その上で在住外国人を１０万人に増加させるには、外国人労働者受入れや留学生の県内就職・促進等、どのような取組を進めればいいかを検討（大分県国際政策課からの課題投げかけ）
→ＡＰＵ講義内において、留学生を含める学生262人が各5-6人のグループに分かれ取組について議論、最も優秀なアイデアを大分県に提案

1. 大分県における2045年の在留外国人口構造目標（政策目標）

階層別 (少人数 → 多人数):
1. **技能労働者:** 留学生が卒業し、大分県に残り働く
2. **留学生**: 大学生や介護・看護学校生
3. **技能実習生**: 技能実習生・特定技能者

2. 在留外国人の人口増加予測（2021年～2045年の政策効果試算）



3. 提案:大分国際化開発組合の設立

OUIDの根拠・機能:
1. **何故組合なのか?**：静岡県の公益財団法人浜松国際交流協会外国人人材誘致の成功事例を採用
2. **機能:**設立される組合は、大分県が日本の中で労働者中心で外国人に優しい労働環境であることを促進することができる
3. **メッセージ**: 大分で困難のない、フレンドリーで手頃な日本を楽しもう

4. OUIDにおける4つの柱

1. 戦略的パートナーシップ
- パートナー: 10 海外都市/地域
- 大分県がより良い公共インフラを支援、求職者向けの就職説明会を直接実施する
- 影響: 27,046人以上の技能実習生

2. 介護福祉士・看護学校
- 大分県に大規模な介護福祉士・看護師養成学校を設立する (5,000人規模)
- 2045年までに九州における拠点となる
- 影響: 7,303人以上の公認介護福祉士

3. 毎年スペシャルイベント週間を実施
- 在留外国人が参加する表彰式、 ピッチイベントや学術会議の実施
- 国際交流の促進
- 影響: 4,271人以上の留学生

4. ファストトラック採用プログラム
- 大分県内の大企業による大学でのコンペ開催、コンペを通して留学生が企業からファストトラックオファー（採用選考の一部免除など）を受けることができる
- 影響: 3,169 人以上の技能労働者

取組②（大分大学）

護摩焚きの観光化の可能性を探る

課題設定 文殊仙寺の護摩焚きを観光化することは可能か（参加者日本人学生4名、留学生5名）
大分県民でさえその存在を知らない者が多い国東の文化遺産
文殊仙寺の護摩焚きに焦点を当て観光客を呼ぶ方法を考える

文殊仙寺訪問（2022年1月30日）

護摩焚き体験から見出した価値（ディスカッション１）
日常生活とかけ離れた宗教的儀式に対する憧憬的価値（日本人学生）
宗教的儀式に対するご利益期待価値（日本人学生、留学生）
宗教的儀式を観光化することへの否定的価値（日本人学生）
宗教に対する懐疑論的立場からのご利益に対する否定的価値（留学生）
護摩焚きという儀式そのものに対する独創的価値（留学生）
文殊仙寺の存在、それを囲む自然環境も含んだ価値（留学生）
護摩焚きの写真が撮れないのは観光資源とはなれないとする観光重視的価値（留学生）

護摩焚きを家族・友人に勧めるか（ディスカッション２）
ほぼ全員が家族には勧めるが、友人には勧めないと回答

体験から得た気付き（ディスカッション３）
護摩焚きは宗教的儀式であるが、周辺の環境整備も含め観光資源として活用は可能
⇒護摩焚きは観光資源のポテンシャルがある

提案	○OUID（大分国際化開発組合）を設立し、大分へ外国人労働者を誘致 ○宗教的儀式の観光化による交流人口の増加

看護学生による情報通信技術を活用した遠隔予防的家庭訪問実習
～コロナ禍での長期自粛生活による高齢者のフレイル予防～

大分県立看護科学大学

1. 地域が抱える課題と背景

COCを契機に2015年から実施している、看護学生による予防的家庭訪問実習では、看護学生が70歳以上の高齢者宅を定期的かつ継続的に訪問することで、協力者の健康維持をサポートするだけでなく、訪問活動で把握した地域課題について自治体等にフィードバックして情報共有を行ってきた。しかし新型コロナウイルス感染症の感染対策で地域活動が自粛される中、高齢者は外出する機会が減り、フレイルに陥る高齢者が増えている。また、自治体等としても高齢者の生活や健康状態の把握が困難になっている現状がある。

2. 目的

そこで本事業では、情報通信技術を活用して看護学生が高齢者と、遠隔で「訪問」に相当する実習を行う。これによって在宅高齢者の体調確認や健康に関する助言を行うことで、フレイル予防に資する可能性がある。さらに、情報通信技術を活用した交流（つながり）の効果を自治体等と情報共有することで、地域での新しい世代間交流の形を検討できる。

3. 事業実施経過及び内容

これまでの「予防的家庭訪問実習」協力者の中から上記対象者をリクルートする方向で準備を始めたが、端末機器の利用が難しい人が多いことがわかり、多くの協力者とオンライン交流をすることは難しいと判断した。そこで計画を修正して実習とは別の課外活動と位置づけ、協力者のうち自治会役員や老人クラブの役員を務める6名とボランティア看護学生8名、及び教員3名により、新しい形の世代間交流のあり方を探るためのオンライン交流会を実施することにした。

協力者にお渡しした
機器と説明書

説明書の内容
流れを一つ一つ写真入りで説明した

協力者にWIFIモバイルルーターとタブレットを貸与し、自宅で1人でもZoomに入室できるようパンフレットを作成して説明を行った上で、40分程度の交流会を3回実施した。実際には協力者の端末利用に際して、トラブル発生時の対応にサポートが必要であることや、Zoom機能を最大限利用するためには端末機器に慣れる時間が必要であること等がわかった。

第1回目交流会ではブレイクアウトルーム機能を使い、2グループに分かれて自己紹介を兼ねたゲームを行った。学生から自治会や老人クラブについて質問があり、協力者が活動の内容やコロナ禍の現状を説明した。第2回目は、連想ゲームと、マスクを着用していても表情豊かに過ごせるよう肩や首筋、表情筋をほぐす「顔面体操」を、全体で一緒に行った。参加した協力者から、簡単にできる運動なので老人クラブでも紹介したいという感想が寄せられた。第3回目は成人の日であったため、互いの成人式の日の思い出を話してもらった。協力者からは、既に働いていたため成人になったという意識はあまりなかったことや、今のような式典はなかったが新しいスーツとネクタイを着用した思い出等が語られ、当時の様子をうかがい知ることができた。昨年、成人を迎えた学生は、コロナ禍で式典が中止になったことや、感染対策のため飲食はできなかったが旧友と久しぶりに話せてうれしかったことが語られた。その後、成人年齢の18歳引き下げについて、異世代間で意見交換を行った。

4. 事業成果

学生有志は皆、異なる世代とのオンライン交流が初めてであったため、どのような会にすればよいのか心配しており、見方を変えればこのような形での交流にも関心が高いことがうかがえた。実際に参加してみると学生は非常に積極的で、協力者との会話や交流を大いに楽しんでいた。学生は地域活動に積極的に参加している協力者から、地域の現状や、協力者が地域を思う気持ちも知ることができたので、今回をきっかけに地域の高齢者の間でもオンライン交流の活用が進むことを願っていた。学生間でも、下級生が上級生のコミュニケーション力に刺激を受けたことが示された。ただし、高齢者とオンライン上でコミュニケーションを行うことの難しさを感じた学生もいた。

これを協力者側から見ると、ICT技術を使えば対面しなくとも世代間交流会や地域内交流会・会議等が開催できる可能性、そしてそのような技術を学生が使いこなしている現状を目の当たりにする機会となった。ただし端末のセットアップがうまくいかない場合もあり、技術的にいくらか課題が残ることも示されたが、とりあえず技術的可能性を地域のキーパーソンに体感してもらうという狙いは達成できたと思われる。このような技術を使って何をするか、学生や地域の人々がそこにどのように参画するかは、別途の今後の課題である。

地域資源（ヤブツバキ）を活かした佐賀関地域の活性化

大分短期大学／園芸科　教授　吉野　賢一

令和3年度 実践型地域活動事業
地域資源（ヤブツバキ）を活かした佐賀関地域の活性化

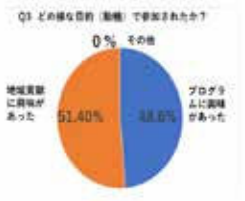
○目的

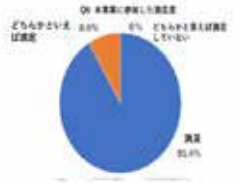
平成29年5月・大分短期大学（以下大分短大）と NPO さがのせきまちづくり協議会（以下ＮＰＯ）とが協定を締結している。本事業で、大分短大及び地元 NPO との連携を図り、地域資源のヤブツバキを活かした、佐賀関地域の活性化を目指す。特に学生達はフイールドワークによって地域の実態及び課題を知ることにつとめるとともに、地域住民との交流を深めた。ワークショップで地域活性化のビジョンづくりや地域資源の利活用の普及に資する。

○実施概要

Ⅰ．ヤブツバキ椿油分析用果実の採取及び椿油の香り成分の分析
令和３年９月 19 日（日）果実採取：参加学生 13 人➡令和４年１月搾油
令和４年１月 14 日～香り成分分析開始（別府大学）
別府大学食物栄養科学部発酵食品学科（以下別府大学）
Ⅱ．活性化ビジョン創りのワークショップ
令和３年９月 19 日（日）３班編成（ 公民館工作室）参加学生 13 人
Ⅲ．海を守る廃プラスチックごみゼロ作戦　参加学生 14 人
令和３年 11 月６日（土）関崎半島　黒ヶ浜海岸（渚百選）の清掃活動
Ⅳ．環境に負荷の少ない椿油利用の手作り石けんづくりのワークショップ
令和３年 11 月６日（土）公民館　工作室　参加学生 13 人
Ⅴ．ヤブツバキ果実利用の手芸品の展示及び手芸品づくりワークショップ
令和３年 12 月５日（日）公民館　工作室　参加学生 13 人

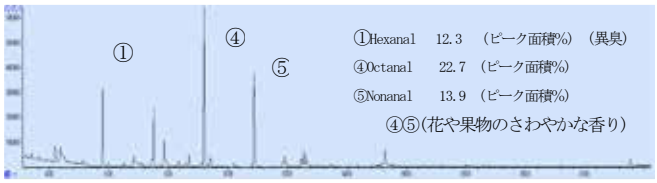
［アンケート調査結果］　参加目的（動機）及び満足度





Ⅰ．ヤブツバキの椿油の香り成分分析

香り成分分析結果　（分析：別府大学食物栄養科学部発酵食品学科）



学生達の採取した果実から 6.9Kg の乾燥種子が得られ、NPO にて１月５日に搾油し 1.820m搾油。搾油率 23.7%の椿油が取れた。直ちに別府大学へ分析検体として持ち込み香り成分分析を行った。花や果実の香り良い爽やかな香り成分が含まれていることが解った。香り成分測定機器は Agilent Technologies 製の 7890B GC System と連結した 5977A MSD。

Ⅱ．活性化ビジョン創りのワークショップ

学生達は３班に分かれ、ブレーンストーミングでアイデアを放出し、ＫＪ法で課題を導き出した。各班から創出された活性化のビジョンは次のとおりである。

Ａ班：イベントや商品開発を通して佐賀関に興味・関心を持ってもらう
Ｂ班：サガノミクス（佐賀関地域の経済の活性化）
Ｃ班：世界一行きたい佐賀関

ワークショップへ終始参加した NPO 理事長渡辺　修（86）氏の声として「若い人ならではの感覚や視点を知る機会になった。実現できそうなところから活動に生かしたい」と。
大分合同新聞 2021 年（令和３年 10 月５日）朝刊

Ⅲ 海を守る廃プラスチックごみゼロ作戦

学生達の活動の一環（写真）が、大分合同新聞（令和３年 11 月 18 日）朝刊や「県うつくし県民会議」等の広報誌に取り上げられた。(拾ったごみの量　50 リットル×53 袋)
「細かいゴミもあった。私たちの生活が便利になるにつれて生き物に負担が掛かっていることをすごく感じた」　１年：小野千尋さん（18）

Ⅳ 環境に負荷の少ない椿油利用の手作り石けんづくりのワークショップ

特産椿油を用いた手作り石けんは、その後約 40 日間乾燥・熟成させ、再び参加者に届け、学生は、ゼミ研究の一環として使用後のアンケート調査を行っている。

Ⅴ．ヤブツバキ果実利用の手芸品展示及び手芸品づくりワークショップ

公民館 1F ロビーにて、公民館行事で集う多くの参加者に展示品を見て頂き、学生は見学者の声を聴衆した。工作室では高齢者・夫人を対象に手芸品づくりを行った。手芸品作りのワークショップでは地元の参加者と学生との弾ませた会話の声を拾う！と、「身近すぎて、今まで見過ごしていた花の実。アイデア次第でこんなにすてきになるなんて」と喜んだ。
大分合同新聞　2021 年（令和３年 12 月 21 日）朝刊

参加した学生７人の意見・感想

○現在の地域課題を明確にし、解決策を出すことが出来た。
○話し合い等を行い、課題について考えることが出来た。
○佐賀関について、これまで知らなかった様々な面を見ることが出来た。また、地域の方と交流を深めることができ、とても良い 社会勉強となった。
○環境に優しい取り組みや地域貢献を身に染みて感じた。
○地域資源の利用について知識を得た。
○地域の方と触れ合うことが出来た。次回も参加したいと思った。
○とても充実した時間でした。貴重な体験・経験でした。参加できてとてもよかった。次回も参加し たいと思った。
○地域資源の利用について知識を得た。○地域の方と触れ合うことが出来た。
○とても充実した時間でした。貴重な体験・経験でした。参加できてとてもよかった。

佐伯市の水産事業者との連携による新ビジネスモデル模索プロジェクト

～ 学生目線による佐伯市水産業の魅力発掘・創出の実践 ～

指導教員：日本文理大学 経営経済学部 山内勝義、小久保雄介、阿部裕香里、梶田真生

1.プロジェクトの概要

大分県佐伯市の水産業における働き方や経営上の課題を学生が認識し、課題解決を水産事業者(漁業者および加工業者等。以下同様）と共に模索することを目的とし、課題を抱える対象者は、大分県佐伯市の水産事業者と規定した。

本プロジェクトが対象とする大分県佐伯市は農林水産業が盛んであり、特に水産業の生産量は県内の水産業生産量の65%、養殖業は全県生産量の約80%を占め、多種多様な魚介類や水産加工品を売り出しているにもかかわらず、佐伯市の水産業の認知度はそれほど高くない。その上、佐伯市の漁業就業者は平成5年から平成25年にかけての20年で46%も減少し、年齢別漁業就業者は40歳未満が全体の20%と漁業後継者不足の恐れが顕著に表れていると推察され、早期に佐伯市の水産業を担う人材の育成をしなければ大分県の水産業生産量は大きく減少する可能性が高い。

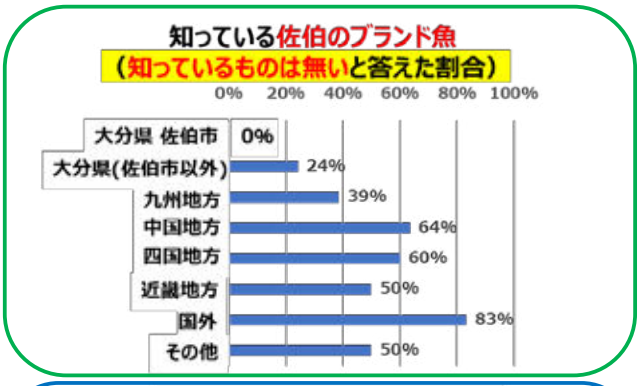
本プロジェクトでは、学生たちに大分県の水産業に興味をもってもらうために、水産業者の話を丁寧に聴き取り、水産事業者の方々があたりまえのこととして気付いていない仕事・産物の魅力を、学生たちの目線で発掘し、その魅力を多くの人や地域へ発信し、認知度を向上させるためには何が必要かを深く考え、解決策を水産事業者の方々と一緒に模索した。

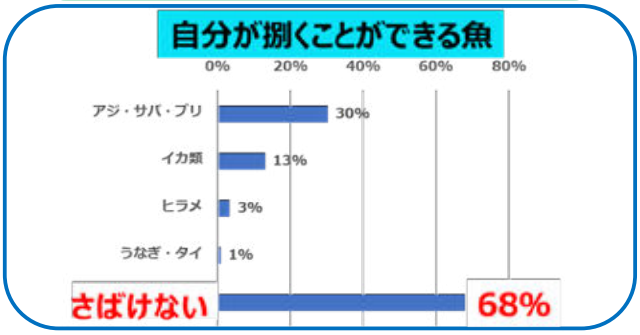
2.プロジェクトメンバー

指導者：日本文理大学　経営経済学部　教員4名
参加学生：日本文理大学　3年生3名、2年生11名
連携企業・自治体等：佐伯市役所 農林水産部、大分県漁業協同組合、道の駅かまえ、後藤緋扇貝、早川商店、親幸水産、山崎水産、村松水産、浪井マルミ水産、浪井丸天水産、おおいた食育ひろげ隊、さいき・あまべ食べる通信、

3.学生による課題解決行動と地域への成果等

●日本文理大学生に対して行った「大分県佐伯市の水産業についてのアンケート」の122件の調査結果を分析し「遠方に行くにつれて知名度が下がる」「そもそも佐伯の魅力が伝わっていない」「誰が生産した魚なのか気にしない」「天然と養殖魚の違いを気にしない」「魚を捌けない」という課題を見出した。





【学生たちが考えた現時点での課題解決策】

①魚をさばくことができない人に対して、動画を発信し、魚をさばくことへの興味を促す　②商品開発＝鰤の藁焼き
③SNSや解体ショー等の認知度・消費量向上ための活動
④調理実習やスーパーの試食などで味と存在を知ってもらう
⑤レシピ(加工品)を作る　例：ヒラメの干物
⑥リモネンが多いなど美容や健康志向の方にアピールする
⑦味だけにこだわらない　⑧インフルエンサーとの連携
⑨ASC認証の獲得 ⑩「ゆるキャラ」を募集して知名度向上
⑪単に「ゆるキャラ」を募集するのではなく、「ゆるキャラ」募集をフックに佐伯の水産物の良さを知らしめる「オリエンシート(募集要項)」を作成し、関連イベントを開催することによって環境や水産業などの佐伯の魅力を伝え関心を高める
⑫「ゆるキャラ」を通して子供に佐伯の魅力を知ってもらうことによって、親の認知度が高まることも狙う

●**11/20に、お世話になった地域の方々に対して、活動の中間発表会を佐伯市のさいき城山桜ホールにて開催**し、その模様は、**大分合同新聞に記事掲載された。**
また、**自分達も魚を捌けるようになりたいと「おおいた食育ひろげ隊」のご協力を得て、アジの捌き方を実地で学んだ。**

三重町市場通り活性化のための光環境改善ワークショップ

日本文理大学／工学部　助教　江越　充

NBU 日本文理大学

紙面デザイン：志方遥郁

三重町市場通り活性化のための光環境改善ワークショップ

日本文理大学　建築学科　助教　江越充　　教授　近藤正一　　一般社団法人ぶんご大野里の旅公社　赤嶺信武　三浦絵里奈　　豊後大野市　建築課　都市計画建築係　桑原一善　佐藤康宏
かたるみえ・LuMie Night 2021 実行委員会　若林幸隆　村田岳彦　長吉優香　廣瀬右京　堀田健翔　益満光　渡邊尚樹　志方遥郁　八木千尋　小川茉莉　渡邊新　KIM SEUNGHYUN　畑野達也　二見拓希　齋藤志歩　田原乃々花　玉田梨那

対象

宿場町の面影が残る豊後大野市三重町市場通り

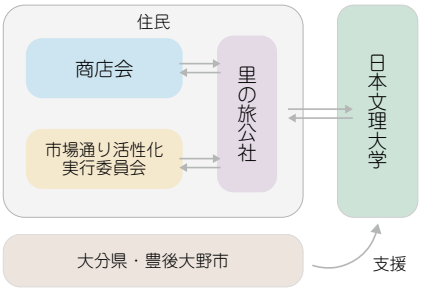
かつては交通の要衝であり、昭和 30 年代まで宿場町として栄えたが、
近年は交通網の変化や地域住民の高齢化による地域の活力の低下が課題となっている。
加えて、空き家・空き地の増加や街路灯の老朽化が進み、
街の夜の安全・安心が脅かされている現状にある。

目的

街の夜の安全・安心 ＋ 活気

安全・安心の光環境の創出、愛着・誇りを持てる夜の景観づくりを目指し、
地域住民に関心を持っていただくためのきっかけとして、光に関するワークショップを開催した。

各団体の関係



実施内容

再び火を灯すことで、街を見つめ直すきっかけを作る

6 月
- 夜の現状を調査

- 夜のまち歩き実施

8 月
- イベント実行委員会立ち上げ

- 現地での打ち合わせ
- 学生によるプレゼンテーション

10 月
- プロジェクト履修生による提灯の大量制作開始

10/24
イベント実施

12 月
- 実際の街路を使用した照明実験

- 県の会議にて
- イベントの結果を報告

・まちおこしイベント「かたるみえ・LuMie Night」

提灯・ランタン作りのワークショップを開催

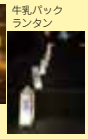
住民に受け入れられたかつての屋号を記した提灯

子供に大好評の手提げ提灯

手提げ提灯を持った観客が街を行き交った

メインイベントとなるキャンドルアート（モチーフ：地域の史跡の一つである虹淵橋）

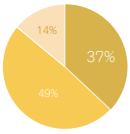
牛乳パックランタン



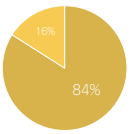
成果

住民の意識の変化：“諦め”から“見直そう”という意識へ

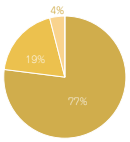
Q. この地域に対して
イベント前まではどのようなイメージをお持ちでしたか



Q. イベントを体験後、
この地域に対するイメージを教えてください



Q. 地域を活性化させるためにはこのような町を挙げて行うイベントを毎年、もしくは定期的に行うべきだと思いますか



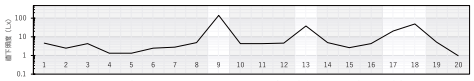
街の声

40 代～ 50 代女性　三重町在住
普段は人通りが無くてさびしいが賑やかで良かった

60 代～ 70 代女性　三重町在住
またこのような事をしてほしい

60 代～ 70 代女性　三重町在住
昔のようなにぎわいを感じた

60 代～ 70 代女性　三重町在住
店を譲る気でいたが、もう少し続けることにした



夜間の街路の明るさの実測調査結果（街路灯の直下路面照度）

アンケート内容	とてもそう思う	比較的そう思う	どちらともいえない	あまり思わない	そう思わない
普段よりもイベント時の市場通りの方が明るいと感じるか	18	9	1	0	0
普段よりもイベント時の市場通りの灯りの方が安心して歩くことができるか	17	11	0	0	0
イベント時の市場通りの明るさが普段の通りにも必要だと感じるか	18	10	0	0	0

学生の成長

人を想う

本事業を通して、学生たちが地域の方々を想い、作品を残した。
その成果の一部をここで紹介する。

若林幸隆
イベント名「かたるみえ・LuMie Night」の由来

かたるみえ　：仲間に加わるといった意味を持つ方言の「かたる」と、光をフランス語で表す「ルミエ」、三重町の「みえ」を合わせたもの
LuMie Night：目に留まる大文字のＬとＭは「ルミエ」と「みえ」を彷彿とさせる夜の郡も盛り上がりをみせて欲しいとの願いから派生名をつけた

中心の三つ葉は「三」重町が芽生える様子を表している

志方遥郁
イベントのロゴデザイン

「つな」ぐから横綱のしめ縄をモチーフにしたロゴをデザイン　彩られた 9 色は三重町の統合前の村の数を表しており、地域の繋がりがより深まってほしいという思いと市場通りが益々賑わい、発展してやまないようにという思いをこめた

長吉優香
街路の未来図

新しい形の街路灯が街に活気を与え、住民が夜も安心して通りを行き交う景色を思い描いている

村田岳彦
綾のはこ

市場通りを行き交う人々の様子を漁業で使われる糸の綾で表現し、時計台広場がこれまで以上に人々の中心になるようにという思いが込められた作品

村田岳彦＋NBU 建築学科 1 年生
虹の卵

豊後大野市を構成する七つの街を虹に例え、新たな催しが産声を上げたことを例に込めた作品　広く知られる催しとなるよう願いを込めながら作った

今後の課題

スタートラインへの助走

本事業での取り組みはあくまできっかけに過ぎず、今後も地域住民との対話やワークショップ活動を通じて、より良いまちづくり、光環境について考えていく必要がある。
地域住民が主導してまちづくり、光環境改善に取り組み始める機運が高まった時に、初めて本当のスタートラインに立つことができるため、そこに向けた支援活動・共同研究を今後も続けていきたい。

舞子浜緑地リビング化プロジェクト＃2

日本文理大学／工学部　准教授　木村　智

日本文理大学　工学部建築学科　木村智研究室

舞子浜緑地リビング化プロジェクト #2

＜本事業の目的＞

(1) 開催３年目のイベント「舞子浜リビング」の周知と地域でのイベント定着の推進に向けての活動の実施

(2) 舞子浜の未来像や将来的な展望について検討すること

(A) 報告用冊子表紙・裏表紙　※展示用パネルと別に作成

2021 年度より新設されたバーベキューエリアの現況写真を加工し、活動報告用冊子や展示会のポスターに使用しました。

(B-1～B-4) 各年度のイベントの様子を示したパネル

大在支所と大在公民館にて、2019 年と 2020 年に行われたイベントの様子、そして 2021 年に実施予定だった学生企画に関してをまとめたパネルを展示しました。

＜本年度の実施概要＞※2021 年度の舞子浜リビングは 2022 年６月に延期

(1) 実行委員会にて企画案の発表と問題点・課題・要望の確認

(2) イベントの PR と活動報告用展示会の下記の２会場での企画と実施
※大在支所 (2021/12/7-23)・大在公民館 (2022/1/7-1/31) に展示

(3) 学生と住民の交流を図るワークショップとアンケートの企画と実施

(4) 協力者の大分商工会議所大在支所支所長の後藤様から頂いた課題「舞子浜緑地帯の未来を考える」に対する学生による提案

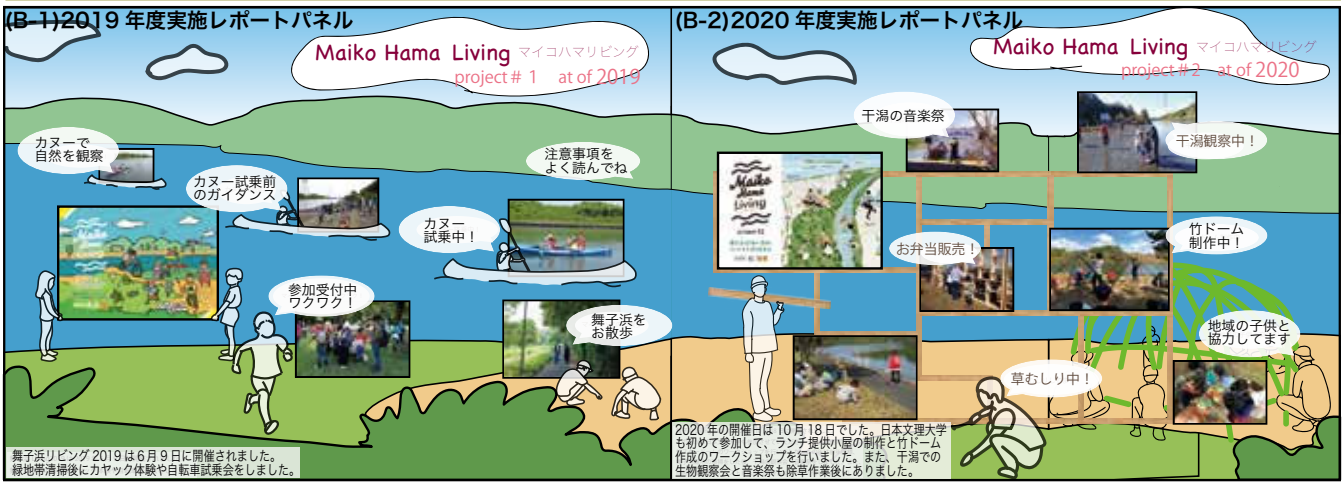
＜まとめ＞

・展示の際に行なったアンケートの結果より、今回の展示を見て初めて舞子浜リビングのイベントや舞子浜緑地帯を知ったという声もあり、今回の活動が認知度アップに貢献したということを実感しました。

・しかし未だ認知度が低いので、地域の人達と交流するワークショップなどを、今後も継続的に続けていきたい。

(A) 報告用冊子表紙・裏表紙

マイコハマをもっと楽しく　もっとにぎやかに



『地方創生のための学生目線による地域企業リクルートビデオ制作プロジェクト』

日本文理大学 工学部 情報メディア学科 小島 康史・星芝 貴行 研究室
株式会社 地域経済情報センター（求人ナビおおいた）

●事業の目的：現在、新入社員の３年以内の高い離職率（大卒 30%以上、高卒・短大等卒 40%以上、中卒 60%以上：厚生労働省サイトより）と、多くの学生の地元を離れ都心部への就職を希望する問題点が挙げられる。本プロジェクトは今年度で５年目の取組みであり、「雇用のミスマッチの軽減」、「若者の地元の定着率の向上」、「地元大学等から地元企業への就職率の向上」を目標とし、地元企業の魅力を発信する、「学生目線」によるプロモーション動画「リクルートビデオ」の制作を目的としている。本プロジェクトの取り組み体制は、右図のようになっている。

●事業の内容：課題を抱える対象者は、若者が求める企業情報を得て、その情報発信が遅れがちな、地方の中小企業である。就職活動を行う学生側が得たい情報と、企業側が発信したい情報には乖離が見られる。通常、求人のための情報発信として制作する Web ページや、そのページ上に掲載あるいは説明会で使用する動画、企業と動画制作の専門業者が行う。Web ページやリクルートビデオにおける会社側の発信する情報の多くは、「社長・会長の挨拶」、「社是・社訓・経営理念」、「会社全体の業務内容（トップダウン型の説明で入社直後の自分が携わる仕事が見えてこない）」等が挙げられる。実際に就職活動を行う学生が得たい情報は、「入社後の自分の姿」（社内の雰囲気を含む）、「数年後の自分が成長できるか」（教育・研修体制）、「事業の安定性や給与・待遇の良さ」（やりがい、実力次第での昇給を含む）等であることが、４年間続けてきた本プロジェクトからわかった。本プロジェクトでは「学生目線」を重要なキーワードとしており、学生自身が企業に対して就職活動を行う際に実際に知りたい情報を引き出し、その情報を元に企画書と絵コンテを作成し、企業側への企画の提案（プレゼンテーション）を行い、「リクルートビデオ」の制作を行う。以下の表がこれまで４年間で作成してきた「リクルートビデオ」である。

制作	企業名	制作映像	制作	企業名	制作動画
2017年度	株式会社 臼杵鋼鈑工業所 http://www.usuki-kouhan.co.jp/		2018年度	仲道トーヨー 株式会社 http://nakamichi-group.com/	
	株式会社 熊野建設 http://kumanokensetsu.jp/			社会福祉法人 庄内厚生館 http://www.kouseikan.jp/	
	株式会社 双葉タクシー http://www.futabataxi.jp/			三光建設工業 株式会社 http://sansansanko.jp/	
	株式会社 トキハインダストリー https://www.tokiwa-industry.co.jp/			株式会社 大谷商会 http://www.otani88.com/	
2019年度	株式会社 大和電業社 http://www.d-yamato.jp/		2020年度	株式会社 光建エンジニアリング http://www.kouken-eng.jp/	
	株式会社 ハヤシグリーンテクノ https://h-gt.co.jp/			株式会社 地域科学研究所 https://www.chklab.com/	
	大分太平洋鉱業 株式会社 http://oita-taiheiyo.sakura.ne.jp/			東洋技術 株式会社 https://www.toyogijutu.co.jp/	

●事業の成果：今年度、制作した各企業のリクルートビデオとその「学生目線による演出」を次の表に示す。今年度も、「給与制度の明確化」、「資格取得や指導体制」、「働き甲斐」、「福利厚生」等の演出を含んだ企画書が学生から提案され、各企業の承諾を得てリクルートビデオの制作に取り組むことができた。これらのビデオは企業にもよるが、各企業の公式ページ、小島研究室ホームページ（https://www.nbu.ac.jp/~kojimayf/）、オオイタカテテ（大分県商工観光労働部雇用労働政策課、https://oita-katete.pref.oita.jp/）から視聴が可能である。

企業名	制作ビデオ	学生による演出
株式会社 あわや https://awaya-fukushi.com/		・企業の長い歴史と、時代に合わせた業務内容を紹介 ・若手社員のインタビュー（担当している業務内容とそのやりがい）を紹介 ・取引先のインタビュー（介護施設利用者からの喜びのコメント）を紹介 ・新入社員へのしっかりとした教育体制を紹介 ・社内の雰囲気、資格取得サポート、メンタルケアについて紹介
株式会社 大分県畜産公社 http://www.jaoita.net/ock/		・会社概要（勤務地・企業目標）を紹介 ・業務内容をわかりやすく（４部門の業務を４分割の画面で）紹介 ・社員のインタビュー（担当業務とやりがいと雰囲気）を紹介 ・資格取得（マイスター・検定）について紹介 ・新入社員研修、福利厚生、地域貢献について紹介
社会福祉法人 親友会 https://3-flower.jp/		・事業内容（就労支援施設・生活介護施設）を紹介 ・若手社員のインタビュー（事業内容とそのやりがい）を紹介 ・施設利用者のインタビュー（施設での様子や感謝の言葉）を紹介 ・新人研修、資格取得とその手当、福利厚生について紹介 ・無資格・未経験でも学べる環境であることを紹介

ひじ町フットパス新ルート「寺社めぐりコース」の開拓

別府大学／文学部　准教授　小嶋　紀博

ひじ町フットパス新ルート　「寺社めぐり」の開拓

別府大学　文学部　国際経営学部

駅近くに歴史的文化遺産が点在する町ひじの再発見

連携自治体　日出町ツーリズム協会
別府大学文学部史学文化財学科　３年/児島康介　円城寺健悠
国際経営学部国際経営学科　３年/草牧遥人　クァクユジン
文学部人間関係学科　准教授/小嶋紀博

概　　要(背景・目的)

豊臣氏ゆかりの豊後の小京都「ひじ」。別府・湯布院と日本を代表する温泉地に挟まれ、中津・竹田といった九州でも有名な城下町に隠れた当地。この当地をもっと知ってもらい、観光客を呼び込む新しい地図を制作することを目的とした。

本事業では、駅近くに歴史的文化遺産が多く点在するという立地の好条件を活かし、学生がフットパスを体験し、学生目線で新たな短時間で楽しめる「寺社めぐり」ツアーの新地図を企画。加えて、学生が地域の自然や観光資源の魅力に触れ、地域が抱える課題について発見し、その解決策などを見出すなど当事者意識を身に付けつるとともに、今後は、その担い手として期待される。

活動の実施状況

ひじツーリズム協会から日出町における観光の現状や課題についての聞き取りを行い、「日出町は、貴重な歴史的文化遺産が多く残っており、いくつかのお寺の住職が定期的に集まり観光客の誘致に積極的である」とのこと。そこで同協会から、フットパスを体験し学生目線による短時間で楽しめる地図の作成を提案され着手。

コロナ禍ではあったが、観光ボランティアよる現地の説明を聞いて回り、身近にある貴重な歴史的文化遺産を観ることができた。その後学生は、資料収集担当、原稿作成担当、デザイン担当など、各作業を分担し地図を作成した。

事業の地域への成果

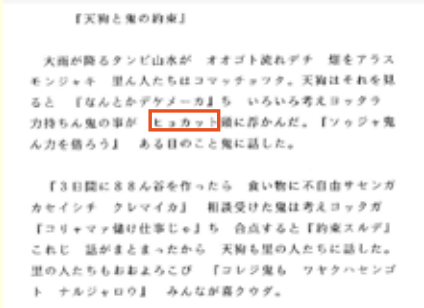
学生がフットパスを体験し、貴重な歴史的文化遺産が豊富な日出町の魅力を２時間程で楽しめる地図を作成。作成した地図は県内の観光案内所等に設置し、今後、観光客の増加が期待される。学生は、身近に場所にも深い歴史と文化財が存在することを体験し、街歩きの楽しさを実感するとともに、チームワークの大切さを学んだ。

野津原方言調査会と学生との学術的交流機会の創出

～『野津原方言集』20巻の電子テキスト化と方言研究を通じて～

別府大学　文学部　国際言語・文化学科
教授　松田　美香
2年　奥野　美咲、甲斐　麻奈未、
川口　玲奈、中本　学

1．地域の課題：若年層人口の激減に伴う方言・文化の衰退
2．取り組み：『野津原方言集』の電子化、交流会、方言ポスター作成
3．参加学生数：29名
4．実施期間：令和3年7月～令和4年1月
5．成果物：『野津原方言集』電子データ（20巻分）、
ポスター「大分の『野津原方言集』大学生が残したい方言シリーズ」（10パターン）


『天狗と鬼の約束』

大雨が降るタンビ山水が　オオゴト流れデチ　畑をアラスモンジャキ　里ん人たちはコマッチョッタ。天狗はそれを見ると　『なんとかデケメーカ』ち　いろいろ考えヨッタラ力持ちん鬼の事が　ヒョカット　頭に浮かんだ。『ソウジャ鬼ん力を借ろう』　ある日のこと鬼に話した。

『3日間に8ヨん谷を作ったら　食い物に不自由サセンガカセイシチ　クレマイカ』　相談受けた鬼は考えコッタガ『コリャマァ儲け仕事じゃ』ち　合点すると『約束スルデ』これじ　話がまとまったから　天狗ち里の人たちに話した。里の人たちもおおよろこび　『コレジ鬼も　ワヤクハセンゴト　ナルジャロウ』　みんなが喜クウダ。

11月4日：学生たちが「気になる方言」の含まれた物語を朗読していただく

令和3年7月29日：野津原方言調査会の方に、Zoomで疑問点を質問

12月9日：別府大学で交流会で行う。グループ毎にプレゼンテーションし、たくさんのコメントをいただく

11月4日～12月9日：残したい方言のポスター作成と並行して、野津原方言の保存・継承のアイデアをグループワークでまとめる

令和４年1月21日～：別府大学駅の掲示板にて、順次ポスター掲示中！

新規発酵調味料「とととのみそ」の利用開発による地域の振興

別府大学短期大学部／食物栄養科　教授　岡本　昭

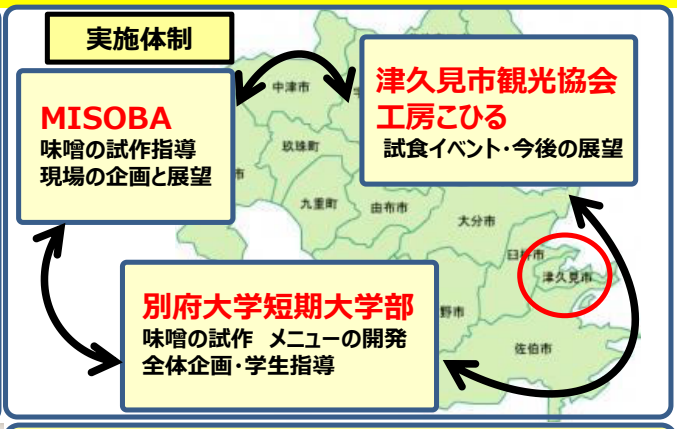
新規発酵調味料「とととのみそ」の利用開発による地域の振興

別府大学短期大学部食物栄養科

地域が抱える課題と背景

1．津久見市は**人口減少・少子高齢化**が進む。
2．振興策として歴史、文化を生かした観光地域確立のための**ブランド化**があげられている。
3．当地区は**豊富な水産資源**に恵まれており、水産物の付加価値向上、魚食の拡大が求められている。
4．このため、水産業と連携した食観光の推進として、**「津久見ひゅうが丼キャンペーン」「津久見モイカフェスティバル」**を開催、成功している。
5．新たな戦略として、**水産物を利用した新たな発酵調味味噌「とととのみそ」**の開発に着手。
6．今年度は、**「とととのみそ」**を利用した商品開発と津久見市での啓蒙を図る。

実施体制



味噌仕込みと勉強会

ウインターフェスティバルでの展示

減塩料理試作中のひと時

津久見市での試作及び試食会

活動内容　その１

6月　事業に先立ち、学生の発酵食品に関する**勉強会**開催
　大豆味噌および**「とととのみそ」の仕込み**開始

8月～**「とととのみそ」**を利用したメニュー開発
「とととり天」　大分のソウルフード「とり天」に「とととのみそ」を使用した新作料理
「バーニャ・カウダー」　イタリアの郷土料理に「とととのみそ」を使用した新作調味料

～開発期間中～
　この世にない新しいものを考えよう～！と檄が飛ぶ　笑笑

11月　**津久見市での試作及び試食会開催**
　マスコミの取材を受け、NHK、OBS、大分合同新聞に取り上げられた。

活動内容　その２

12月　別府大学短期大学部が主催するイベントで紹介
　別大ウィンターフェスティバル
　別府大学70周年記念オリーブプロジェクト

12月　うま味調味料勉強会への参画

12月　**「とととのみそ」**を利用した**減塩料理**の検討

1月　民間業者と**商品化**を目指した「とととのみそ」の仕込み開始

バーニャカウダー

とととり天

とととのみそプロジェクト　メンバー

津久見市観光協会　MISOBA（江藤薫）
工房こひる（今村祐美）
別府大学短期大学部食物栄養科
伊東日菜海　海野 愛　甲斐明日香　姫野拓真　葛城日菜
﨑山哉泉　佐藤亜弥　佐藤彩名　佐藤美侑　髙田 藍　高木らん
西岡ひかる　田中利樹　梅木大雅　山田健人　福谷美羽
和田ひかる　岡本　昭　衛藤大青　藤岡竜太　伊藤京子

評価と今後の展望

①学生の**発酵食品**に関する**知識と調理**や**加工品開発技術の学び**ができた

②**「とととのみそ」**を利用した食品への展開
　「とととり天」「バーニャカウダー」のほかに**洋菓子！**へも展開中
　味噌汁、肉じゃが、カレーライス等普段の食事への利用も検討

③**津久見市と共同**して**試作及び試食会の開催**と市民による評価
　イベントは**高評価**で終了
　津久見市の地域貢献に興味を持った学生の増加

④味噌様発酵食品の特徴を見出す
　「とととのみそ」の**発酵・製造条件がほぼ確立**
　「とととのみそ」の**新しい機能性**の発見
　「とととのみそ」の**減塩効果**の可能性
　学生のアイデアで実施した**新感覚の味噌様食品**も順調な発酵
　これらは加工業者から要望もあり**商品化**に向けて活動を開始した

キャラクターもつくりました

亀川商店街再活性化計画策定事業

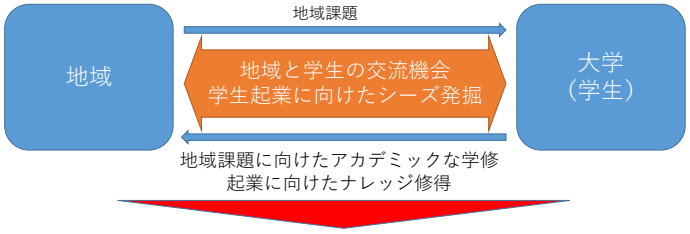
立命館アジア太平洋大学／アジア太平洋学部　教授　須藤　智徳

亀川商店街再活性化計画策定事業

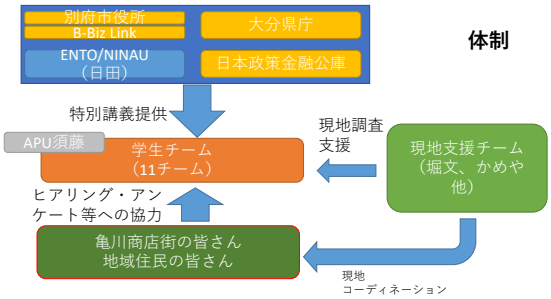
立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部　須藤智徳

0.　背景

亀川商店街は別府市の北部にある商店街で、ＪＲ亀川駅から徒歩５分に位置する南北約９００ｍの商店街である。近年は来街者も減少し、経営者の高齢化・後継者難や空き店舗の増加等問題を抱えている。2018年にはその中核店舗であったマルショク亀川店が閉店したが、2020年に試験的に空きビルを活用して、APUの学生が期間限定のカフェを開業したところ、近隣住民から高い評価を受け、その後APU学生による「無料のスーパーマーケット」の期間限定実施した際にも多くの来店客が訪れる等、商店街活性化のポテンシャルは十分にあることが確認できている。他方で、住民の高齢化に配慮し、イベント等による騒音の発生等に留意し、すべての住民にとって受け入れ可能で持続的な取り組みを行なっていく必要がある。



大分県等と連携し、実践型の起業家を目指す学生に対し、課題発見、課題解決および提案力を構築するとともに、起業に必要な手続きや資金調達、企業経営等の実践的な知見の修得を目指す。



1．本事業の目的

本事業は、これまでの当該授業での経験と学生たちによる亀川商店街での試験的なビジネス実施実績を踏まえ、亀川商店街の課題を特定し、同商店街の特性を活かしたビジネスによる商店街活性化方策を検討し、もって亀川商店街の活性化を図ることを目的とする。

2．実施内容

本事業は、秋セメスター開講科目「環境・開発　特殊講義」として実施し、14回の授業のうち、10回は教室での講義（うち4回はゲストスピーカーによる講義）、3回を現地フィールド調査、1回を公開発表会開催とした。

本事業は、①「知る」地域の把握、②「学ぶ」基礎知識の修得、③「見る・聞く」現地フィールド調査、④「創る」事業形成、⑤「示す」公開成果発表、の５部で構成。

週	日時	授業内容
第1週	10月8日	イントロダクション
第2週	10月15日	大分県の地域課題
第3週	10月22日	別府・亀川の地域課題
第4週	10月30日	**現地調査/現地状況の把握**
第5週	11月5日	起業とは
第6週	11月12日	起業に必要な法律・会計の知識
第7週	11月20日	現地調査/社会課題の特定
	11月26日	クォーターブレーク
第8週	12月10日	資金調達手法
第9週	12月17日	公的金融機関による起業支援
		年末年始休暇
第10週	1月7日	別府市による起業支援
第11週	1月8日	現地調査/社会課題解決策の検討
第12週	1月14日	事業計画立案ワークショップ
第13週	1月21日	事業計画立案ワークショップ
第14週	1月29日	事業計画プレゼンテーション大会

立案した事業の実施と協働化の方向性

・受講学生が作成した事業提案14件について地域住民を対象にプレゼンテーションを実施し、60名ほどの地域住民等が出席し、意見交換を行なった。
・今回提案された事業のうち４件ついては地域住民とともに実施に移されることとなった。今後、地域住民との協働を行なっていく予定。
・更に、今回選択されなかった提案も、引き続きブラッシュアップの上、亀川商店街関係者及び地域住民に引き継がれるとともに、来年度希望する学生がいれば、その学生らと連携して地域住民が自ら事業実施を図ることが可能となる。

一過性のイベントではない事業形成を行なう本事業に対する亀川商店街関係者及び地域住民の評価は高く、本事業の継続が強く望まれている。

3．まとめ

本事業では、学生が亀川の歴史や地理、文化を知るきかっけとなるとともに、亀川地区が抱える社会課題に対し、単なる一過性のイベントではなく、持続可能なビジネスの実施を前提とした事業提案を検討することで、事業立案への実践的な学びとなっている。また、本事業を通じ、受講学生たちの研究成果を地域住民と共有する機会となり、学生による新たなアイデアを生かした地域振興を図る活動を始めていくきっかけとなった。また、受講学生たちは、今回のフィールドスタディで地域の魅力を感じ始めており、今回、本事業を通じた協働を行なったことで地域住民とのつながりを深めることができた。今後、地域の魅力をより具体化するとともに、地域住民とともに地域活性化に更なる貢献を果たすことが期待される。

きたく部 2021 拡張版

大分大学／教育学部　准教授　清水　良彦

きたく部 2021拡張版

放課後学習支援活動 × 居場所づくり活動

2018 2019 2020 2021

きたく部を拡張します！

きたく部は「放課後、来たくなる場所、きたく部」をコンセプトに未就学児～高校生までを対象とした“放課後学習支援活動×居場所作り活動”を実施しています。平成30年10月に活動を開始しました。大分市稙田公民館で毎週月曜・木曜の週２回の活動を実施しています。大分大学教育学部・経済学部・理工学部・教職大学院の学生が参加するボランティアサークル“よりみちの会”がアイデアを出しながら企画・運営しています。さらに、令和3年度は大分県立大分雄城台高等学校生や地域の若者世代の学習ボランティアも参加しました。

「きたく部2021拡張版」では、これまでの活動を軸としながらwithコロナ時代を見据えて「きたく部おもちゃ図書館」と「おうちdeきたく部」の2つの新規事業をスタートさせ、活動の拡張を目指しました。活動内容は右の通りです。

①「きたく部」　毎週月曜・木曜日16:00～18:30
大分市稙田公民館にて実施しました。ここでは、「やらなきゃ」（宿題・予習・復習）「やりたい」（自由な学び）「やろうよ」（交流）の“３つの学び”に挑戦します。

②「きたく部〇〇の日」　１ヶ月に３～４回
不定期に開催するスポーツ・文化体験活動です。令和3年度は「きたく部あそびの日」としてレクレーションを実施。

New!! ③「きたく部おもちゃ図書館」　「きたく部」内で実施
遊びを通した交流とおもちゃの貸し出しを行います。「きたく部」のなかで実施しました。約230点のおもちゃのなかから気に入ったおもちゃを借りることで「おうち時間」を充実させ、家族とのつながりを深めます。

New!! ④「おうちdeきたく部」　参加者の要望に応じて実施
活動場所と参加者の自宅をオンライン会議システム等を活用して接続し、遠隔での学習支援・交流を実施する。令和３年度はこの事業を実施するための環境整備を行った。

拡張！その１　未就学児・親世代の参加が増加しました！

令和3年度は令和3年4月～令和4年1月まで74回（内きたく部〇〇の日25回）の活動を行いました。参加者数は延べ568名（１回あたり7.7名）でした。令和2年度と比較して活動回数は＋30回、参加者数は＋157名となりました。大分県内における新型コロナウィルス感染症拡大の時期に重なった8月～10月にかけて参加者が減少しましたが、その後は参加者数も増加しました。特に、令和3年11月以降に実施している「きたく部おもちゃ図書館つどい」（０歳～3,4歳の乳幼児を対象としたおもちゃ図書館事業・平日10時～12時に実施）のなかから「きたく部」への新たな参加者の開拓につながり、10組の親子が活動に参加しました。未就学児・親世代の参加への拡張は令和３年度の成果です。

表：令和３年度きたく部参加者数・ボランティア数（～令和4年1月21日）

	活動回数		参加者							ボランティア				
	(〇〇の日)		幼	小	中	高	親	小計	人／回	大	高	地	小計	人／回
4月	8	2	0	34	8	13	0	55	6.9	14	0	6	20	2.5
5月	8	2	0	61	2	7	0	70	8.8	8	2	8	18	2.3
6月	8	2	0	87	2	0	0	89	11.1	10	30	10	50	6.3
7月	8	2	6	34	1	0	0	41	5.1	14	43	10	67	8.4
8月	7	2	6	15	1	2	0	24	3.4	9	4	1	14	2.0
9月	7	2	4	30	0	0	0	34	4.9	15	5	1	21	3.0
10月	8	4	2	42	0	2	0	46	5.8	11	20	1	32	4.0
11月	9	4	9	68	1	0	3	81	9.0	11	15	2	28	3.1
12月	7	3	11	62	0	0	5	78	11.1	10	0	2	12	1.7
1月	4	2	9	39	0	0	2	50	12.5	6	0	0	6	1.5
合計	74	25	47	472	15	24	10	568	7.7	108	119	41	268	3.6
(参考)	44	6	0	280	75	56	0	411	9.3	99	65	11	175	4.0
令2年	＋	＋	＋	＋	－	－	＋	＋	－	＋	＋	＋	＋	－

拡張！その２　高校生・地域ボランティアに広がりました！

ボランティア参加者数は延べ268名となりました。大分県立大分雄城台高等学校からの学習ボランティア受け入れは今年度で2年目となりました。令和3年5月以降参加がスタートし、延べ119名の高校生が活動に参加しました。

また、地域の学習ボランティアとして2名（20代：令和2年9月から・30代：令和3年5月から）が参加しました。学習ボランティアは高校生・大学生・若者へと広がり、子どもとボランティアとの日常的な多世代交流が実現しました。

右は地域ボランティアが寄せてくれた感想です。

はじめは静かだった子が私に話しかけてくれるようになったことや、はじめは話しかけることができなかった他の子たちとも遊びや学びを通じて打ち解けていったことが印象に残っています。「きたく部」では、学習や遊びを通じて子どもたちに元気づけられ、また微力ながらも地域に貢献できたという達成感を味わい、さらに人との出会いや情報交換をできる場として活用させていただきました。参加する大人にとっても世代間交流、地域貢献の場としてとても魅力のあるものと感じました。

地域ボランティアＡさんの感想より（一部省略）

IoTによる圃場データ収集とその活用

篠田 理沙[1]　向井 準将[1]　藤澤 朝陽[1]　宮本 凜音[1]　野田 信[2]　船越 雅[2]　草野 夏樹[2]　大竹 哲史[1*]

大分大学 [1]理工学部／[2]大学院工学研究科　*指導者

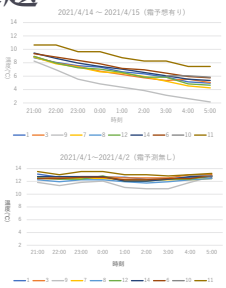
1. 何を実現したいのか？

- 目的
  - 霜の発生予測・警告
    - 収量低下要因の排除
  - 茶畑ごとの品質差の原因究明
    - 品質の向上・均一化
- 実現方法
  - 茶畑のセンシング
    - 地表温度，茶樹周辺温湿度・気圧の監視
    - 茶樹周辺の地表温度差の調査
  - センサデータ解析
    - 霜の発生状況の検出

対象圃場

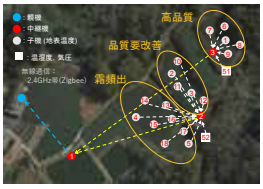
2. 昨年度までの成果と課題

- 成果
  - 生産者の霜発生予測をサポート
    - リアルタイムモニタリングによる畑の温度把握
    - 今まで生産者の判断基準を温度データで裏付け
- 課題
  - 品質差の原因未究明
    - 異常な温度推移・温度取得不能
    - センサ間ばらつきと畑間ばらつきの区別不能
  - 解決策
    - 子機の改良
      - □温度センサの精度向上：LM61 (±2.0℃) ⇒ DS18B20 (±0.5℃)
      - □接続不良，漏水対策：プリント基板に変更，耐候性ボックスに格納
    - 地表温度以外の環境情報の収集
      - □温湿度・気圧センサ(BME280)の設置



3.構築した茶畑モニタリング環境

- 設置場所
  - 霜被害予測
    - 霜頻出畑の温度監視
  - 品質差の原因究明
    - 同一茶樹異品質の畑の温度データ蓄積
- データ収集フレームワークの導入
  - SINET Streamを利用
  - サーバにデータを蓄積して解析へ
- システムの主な構成要素
  - 親機
    - センサコンピュータ (Raspberry Pi 3)
    - 無線通信機 (TWELITE)
    - 携帯通信端末(SINET SIM)
  - 中継機
    - 無線通信機 (TWELITE)
    - ソーラパネル・バッテリ
  - 子機
    - 地表温度センサ(DS18B20)
    - 温湿度・気圧センサ(BME280)
    - 無線通信機 (TWELITE)

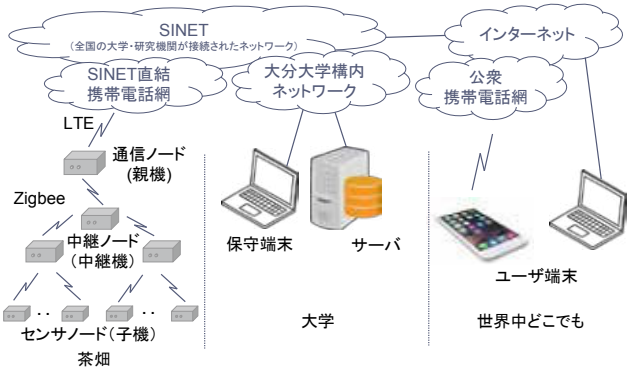


茶畑内配置

子機（地表温度センサ）

子機（温湿度・気圧センサ）

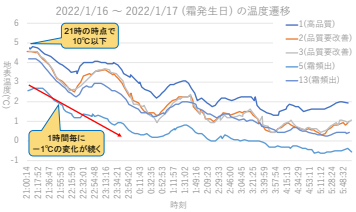
4.茶畑モニタリングシステム構成図

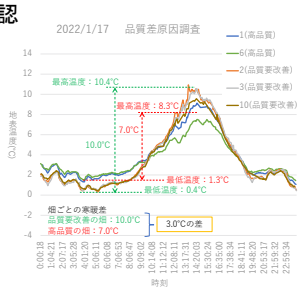


5. 今年度の主な活動

- 学内作業：9回
  - 子機の作成
  - 回収子機の分解・調査
    - 不具合の原因究明・解決策の実装
- 現地訪問：4回
  - 中継機・子機の交換・増設
  - 温湿度・気圧センサの設置
- データ分析
  - 霜発生時期のデータを分析
    - 経験的に霜の発生する状況をデータで確認
  - 品質差のある畑のデータを比較
    - 1日の最高・最低温度に差を確認
- Webページの改良
  - 不具合センサデータ非表示化
  - 霜発生の有無の記録機能

作業風景





1月1日～17日の畑毎の寒暖差は高品質の畑の方が平均3.3℃小さかった

6. まとめ

- 霜の発生予測・警告
  - 畑温度の可視化により，生産者の霜予想をサポート
    - Webページの活用
  - 今後の課題
    - 取得データの解析による霜警告の自動化
- 茶畑ごとの品質差の原因究明
  - モニタリング項目の追加と精度向上
    - 温湿度・気圧センサの設置
    - 精度の良い温度センサへ変更
  - 今後の課題
    - 取得データの解析による品質差原因究明

Webページ

2022/1/21

大分観光バーチャル体験プロジェクト2021

大分大学／理工学部　教授　古家　賢一

大分観光バーチャル体験プロジェクト

（VRのデモがありますので是非，体験して下さい！）

大分大学　大学院　知能情報システム工学コース
山本剛士,姫野祥智,吉田悟
理工学部　知能情報システムコース
神田穂乃香,高東杏佳,吉田輝太

概要

- 様々な分野からVR技術に注目が集まっている

  VR（バーチャルリアリティ）：人間の感覚器官に働きかけ、現実ではないが実質的に現実のように感じられる環境を人工的に作り出す技術の総称

- 近年、VR技術が手軽に体験できるようになった

  例）PlayStation Ⓡ VR、VRお化け屋敷、youtube

- 20代～60代までの男女1,207名を対象にVRに関する調査を行った中で**最も体験したいVRコンテンツは「観光」**であるという結果が発表された（株式会社Viibar調査，2016）

目的

VR ＋ 観光 ＋ 大分

大分大学でのVR技術の研究を生かして
大分県由布市の観光スポットを対象とした
大分観光バーチャル体験コンテンツの作成

由布市役所の方との意見交換

協力していただいた団体

- 由布市役所 様
- 由布市観光協会 様

7/14活動計画打ち合わせ

- Zoomによる打ち合せ
- 由布市について
- 撮影イメージの話し合い

11/5進捗報告会

- VR動画の視聴
- 3～5分の動画にまとめる
- 環境音の付与
- 作成したコンテンツの利用方法

VR撮影機材

全天球映像用カメラRICOH THETA S,V
スマートフォンでの遠隔操作にて録画を行う

THETA S　THETA V　THETA Z1

VRコンテンツ編集

- 必要な場面の抽出
- 動画の作成
- Youtube用VR動画への変換

作業風景

打ち合わせ風景

- テロップを挿入
  場所のイメージがしやすい

観光地向けコンテンツ

由布市での撮影

男池

金鱗湖

由布川峡谷

撮影方法
- 観光客の視点(徒歩)
- 定点カメラ

VRコンテンツの利用

- 撮影した映像を編集

YouTube

- Youtubeなどのインターネット上のVR動画が見れる場所に掲載
- URLを利用者に知らせる

- 利用者にwi-fiなどを使って動画を再生してもらう

- スマホをVRゴーグルにセットすることでVR動画が視聴可能

湯布院TICや道の駅での利用を検討いただいている

お試し版動画URL
https://youtu.be/obANqS8k2TU

Instagram QR

実践型地域活動事業

集　計

看護学生による情報通信技術を活用した遠隔予防的家庭訪問実習 ～コロナ禍での長期自粛生活による高齢者のフレイル予防～

- 参加者の方々と交流を通して笑顔になれた。
- 一部の方が操作がうまくいかず参加することができなかったので、今後は全ての方が参加できたらと考える。
- 高齢者同士の交流を自宅で行える方法を伝えることができ、今後の自治会等の活動に役立てることができると感じた。
- 実習などとは異なる形でのコミュニケーションだったので新鮮であり、世代の離れた方との関わることへの難しさを改めて感じた。

地域資源（ヤブツバキ）を活かした佐賀関地域の活性化

- ヤブツバキやクロメ等佐賀関について色んなことを調べることが出来た。
- ディベートで意見を出し合うのが楽しかった。
- 自分の地元を見直すきっかけになったのが良かったです。
- ツバキオイルで作った石けんは、とてもいい香りで、今後は我が家で好きなアロマや香水で作ろうと思いました。

佐伯市の水産事業者との連携による新ビジネスモデル模索プロジェクト ～学生目線による佐伯市水産業の魅力発掘・創出の実践～

- 課題を発見し、解決策を探すことの流れや順序を詳しく学ぶことが出来た。
- 佐伯の魚ウマいです！！！！
- 活動自体はかなり体力を使うが、グループ活動は楽しい。
- 短い活動期間であった上、コロナ禍での移動制限等により活動に制約が多かったため、商品開発等の提案作業までは辿り着けなかった。地域の方々からの強い期待もあり、次年度も活動を継続して、ぜひ更なる地域貢献と具体案の作成を行いたい。

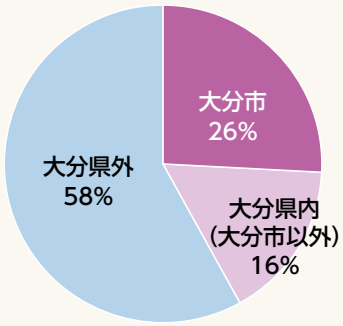
三重町市場通り活性化のための光環境改善ワークショップ

- もっと大規模でやれば、街が明るくなると考えます。(たくさんの提灯を作る)(ほかの商店街でない住宅なども巻き込む)
- 今回のイベントが三重町において初めての取り組みであり、普段やってこなかったことをすることによってまた街に活気が戻ってくるきっかけになったと思う。
- 地域の方々からは活動に対する感謝の言葉を数多くいただき、イベントに対しても多方面からお褒めの言葉をいただきました。「来年もぜひ活動を続けて欲しい」とのお言葉は何よりの励ましと今後の活動の活力になります。

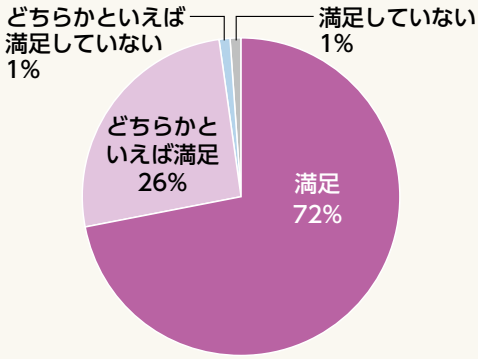
舞子浜緑地リビング化プロジェクト＃２

- 作成した紙管の間仕切りやポスター等で、若者が（舞子浜リビングに）関心を持ってくれ、私達が、「より良くしたい」ということを地域にアピールすることができた。
- 他人事と思っていたが、この地域の一員として、僕だから（建築学生）だからこそできることが提案できた。ぜひ、大学生と地域がどんどん交流できる機会を増やせたら良いと思いました。
- イベントの開催予定日がコロナの感染状況が一番悪いタイミングとなってしまい、地域貢献度が弱まってしまった。

Q. 出身地はどこですか?



Q. 事業に参加しての満足度は?



地方創生のための学生目線による地域企業リクルートビデオ制作プロジェクト

- 地域の就活生のために作った動画で、地域にこんなに魅力的な会社があることを知らせることができた。
- 参加して良かったと感じた。リクルート動画を作ることによって、企業と関わり制作するという貴重な経験をした。
- 昨年度と同様に、新型コロナウィルスの影響の中、打合せ・取材・撮影・試写等の日程を組むことが難しく、また企業への訪問や現場への撮影のための学生スタッフも可能な限り少人数で行いました。

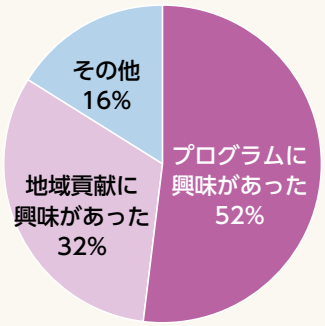
ひじ町フットパス新ルート「寺社めぐりコース」の開拓

- 観光客をどのように迎い入れるかを、同級生と真剣に考えることができた。
- 学生同士のグループワークを通して地域に目を向け、問題提起することで創造的な思考で解決する能力が身についた。
- あまり知られていない町にこんなにも深い歴史と文化的遺産が存在することを知り、また、実際見て回ることで、街歩きの楽しさ、歴史の面白さを体験できた。

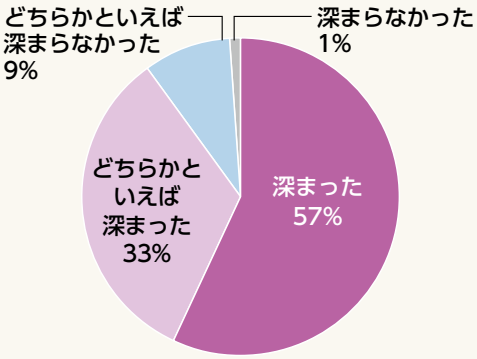
参加学生等アンケート

結　果

Q. どのような目的（動機）で参加しましたか?



Q. 地域への理解は深まりましたか?



新規発酵調味料「ととのみそ」の利用開発による地域の振興

- 大分県の名物の「とり天」に魚で作った味噌を使い他にはないものができた。
- 減塩は大変難しいが、新開発調味料の「ととのみそ」を使うと簡単に減塩ができることを知ってもらうための第一歩を踏み出せた。
- とても楽しかった。「ととのみそ」がいろいろな食事に使えることを知りました。もっといろいろな活動を通じて、「ととのみそ」をたくさんに人に知ってほしいです。
- 今年度の事業は、昨年から継続しているが、昨年が製造を中心としたことに対し、今年度は昨年度の成果を踏まえ、地域の方々と交流ができた。

亀川商店街再活性化計画策定事業

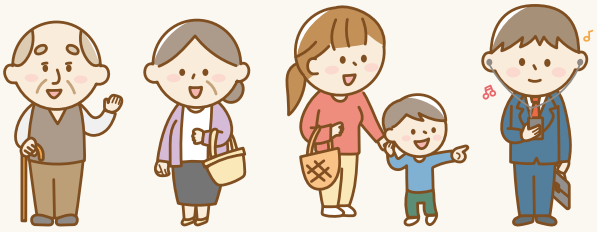
- 起業することの難しさや、地域への貢献の仕方を学ぶことができ、非常に有意義な時間を過ごすことが出来ました。
- 座学で終わらずに事業企画まで担当するという今までにない経験ができた。これからもこのような機会があればぜひ参加してみたいと思う。
- 参加学生が立案した事業を、学生自らが、または亀川商店街のみなさんと協働しつつ、実行に移し、亀川商店街の再活性化に貢献されることが期待される。

きたく部 2021 拡張版

- 子供と接していると学べることが沢山あります。参加してよかったです。
- 子供たちは遊ぶ場所を求めているという課題が見つかったような気がします。
- コロナ禍で学生が登学しない期間も長く、新たな学生ボランティアの発掘が難しい１年でした。

野津原方言調査会と学生との学術的交流機会の創出 ～『野津原方言集』20巻の電子テキスト化と方言研究を通じて～

- 自分が今まで知らなかった方言や、その意味、使い方などを知ることができて方言に興味が湧いた。これからも野津原方言調査会の方々と交流を深めて方言が少しでも残るようにしてほしい。
- 野津原方言の話者とは前期ではリモートだった為、後期は対面で一緒に勉強が出来てとても楽しかったです。
- 大分県にずっと住んでいながら全く知らない地域だったので、「方言」という観点から「野津原」を学ぶことができてとても良い機会になりました。結構前から地方の「過疎化」が社会問題になっていますが、それに伴い方言も減少していくということを知り、より一層自分に何かできないだろうかと考えさせられるきっかけになりました。「野津原方言調査会」の皆さん方と交流して、地域貢献にとても興味を持ち、学生という特権を使ってこれからもいろんな活動に積極的にチャレンジしていきたいです。



IoT による圃場データ収集とその活用

- １年生のうちから様々な活動に参加することができとてもいい経験になった。これからも継続して行われるといいと思った。
- この事業に参加しなければ、気づくことのできなかったことに気づくことができた。また、自分たちの学びを具体的にどのように活かすことができるのかを知ることができた。
- 実践地域活動プロジェクトを学生たちに提供すること、現実の課題を扱うこと、研究室の外に出て実際の現場で活動することは意義がある。

大分観光バーチャル体験プロジェクト２０２１

- 地域の方々が喜んでもらえるようなコンテンツの作成をもっとしていきたい。
- 本事業に参加して、大分県の今まで自分が知らなかった魅力に気づけた。
- 移動の制限などがなければもう少しいろいろな活動ができたと思う。
- 地域の人との関わり合いが刺激となり、大分を知る非常に良い機会になった。

2021年度 地域の課題解決事業成果報告会

令和４年２月15日（火）　オンライン

令和４年２月１５日（火）、２０２１年度に高等教育機関が産業界と地方公共団体等と連携しながら課題解決に向け取り組んだ「大分県と県内高等教育機関の連携による地域課題解決事業」３件、地域活性化をテーマとし主に学生が取り組んだ「実践型地域活動事業」１３件の報告を行いました。新型コロナウイルス感染症の拡大に配慮し、オンライン（Zoom）での開催となりましたが、当日参加できなかった皆様にもご覧いただけるように動画を作成し、報告会終了後、配信しました。また、日本文理大学の吉村充功教授がおおいた地域連携プラットフォームの事業概要や活動状況について説明しました。

なお、おおいた地域連携プラットフォームの構成員である県内の市町村に、実践型地域活動事業の活動内容の評価に対する投票をお願いしました。投票の結果は下記のとおりです。

報告会で発表した皆さん、視聴頂いた皆さん、たくさんのご協力ありがとうございました。

来年こそは、新型コロナウイルス感染症も終息し、対面で実施できることを祈っています。

2021 報告会　案内チラシ

2021 報告会　プログラム

２０２１年度
地域の課題解決事業
成果報告会

主催：おおいた地域連携プラットフォーム

日時：２０２２年２月１５日（火）
１３：００～１７：００
会場：オンラインにて開催
本部　J:COMホルトホール大分
大会議室

プログラム

（司会）　大分大学　学生支援部教育支援課　課長　髙橋　かおり

13：00　開　会

（主催者挨拶）　おおいた地域連携プラットフォーム　会長
（大分大学　学長）　北野　正剛

（代理）　おおいた地域連携プラットフォーム　事業推進本部　本部長
（大分大学　理事、副学長）　藤井　弘也

－　第１部　－

13：05　大分県と県内高等教育機関の連携による地域課題解決事業報告

＊１チーム　発表１５分，質疑応答など5分で進める予定です。

事業番号	事業名等	連携機関等
1	大分らしい和牛肉生産流通戦略事業 県産牛肉の簡易分析・測定等により、大分らしい和牛肉の特徴を探求し、「美味しさ」・「肉の高付加価値化」を目指した改良及びおおいた和牛の生産拡大を目指す。	大分大学理工学部 別府大学食物栄養科学部 大分県農林水産部畜産技術室 大分県産業科学技術センター
2	カキ殻のリサイクル手法の確立 産業廃棄物であるカキ殻のリサイクル手法について、コンクリートや培養土、生分解性容器の材料としての活用方法を確立する。	日本文理大学工学部 大分大学理工学部 大分県農林水産研究指導センター水産研究部
3	外国人材の受入促進に向けた施策提案 2045年までに大分県の在住外国人が現状の約1万3千人から10万人にするための施策を学生の視点で提案し、大分県の経済・社会活力の維持・発展を図る。	立命館アジア太平洋大学 大分大学 大分県企画振興部国際政策課

（休憩）

1

14：15　実践型地域活動事業報告

＊１チーム　発表５分，質疑応答など３分で進める予定です。

事業番号	事業名	代表者	関連地域
4	看護学生による情報通信技術を活用した遠隔予防的家庭訪問実習～コロナ禍での長期自粛生活による高齢者のフレイル予防	大分県立看護科学大学 看護研究交流センター 助教　篠原　彩	大分市（富士見が丘団地、野津原地区）
5	亀川商店街再活性化計画策定事業	立命館アジア太平洋大学 アジア太平洋学部 教授　須藤　智徳	別府市（亀川商店街）
6	きたく部2021拡張版	大分大学　教育学部 准教授　清水　良彦	大分市（稙田地区）
7	大分観光バーチャル体験プロジェクト2021	大分大学　理工学部 教授　古家　賢一	由布市
8	地域資源（ヤブツバキ）を活かした佐賀関地域の活性化	大分短期大学　園芸科 教授　吉野　賢一	大分市（佐賀関）
9	三重町市場通り活性化のための光環境改善ワークショップ	日本文理大学　工学部 助教　江越　充	豊後大野市（三重町）

（休憩）

事業番号	事業名	代表者	関連地域
10	舞子浜緑地リビング化プロジェクト＃2	日本文理大学　工学部 准教授　木村　智	大分市 （舞子浜緑地一帯）
11	地方創生のための学生目線による地域企業リクルートビデオ制作プロジェクト	日本文理大学　工学部 教授　小島　康史	大分市
12	佐伯市の水産事業者との連携による新ビジネスモデル模索プロジェクト～学生目線による佐伯市水産業の魅力発掘・創出の実践～	日本文理大学 経営経済学部 教授　山内　勝義	佐伯市 （主として蒲江地区）
13	ひじ町フットパス新ルート「寺社めぐりコース」の開拓	別府大学　文学部 准教授　小嶋　紀博	日出町
14	野津原方言調査会と学生との学術的交流機会の創出～『野津原方言集』20巻の電子テキスト化と方言研究を通じて～	別府大学　文学部 教授　松田　美香	大分市（野津原）
15	新規発酵調味料「ととのみそ」の利用開発による地域の振興	別府大学短期大学部 食物栄養科 教授　岡本　昭	津久見市、佐伯市
16	IoTによる圃場データ収集とその活用	大分大学　理工学部 教授　大竹　哲史	臼杵市（野津町）

（休憩）

－　第２部　－

16：20　事業の概要説明と中長期計画の進捗状況について
（説明）おおいた地域連携プラットフォーム　教育プログラム開発部会　部会長
（日本文理大学　学長室長　工学部建築学科　教授）　吉村　充功

16：40　実践型地域活動事業　発表者表彰
（１位～３位）

16：50　閉　会
（講評・閉会挨拶）おおいた地域連携プラットフォーム　地域交流・課題検討部会　部会長
（大分県　企画振興部政策企画課　課長）　石井　聖治

17：00　終了

2

協働事務局：大分大学地域連携プラットフォーム推進機構内
TEL：097-554-7913，7980　FAX:097-554-6177
cocsuishin@oita-u.ac.jp

優秀賞者発表

投票結果	事　業　名	担　当　教　員	掲載頁
1	新規発酵調味料「ととのみそ」の利用開発による地域の振興	別府大学短期大学部　岡本　昭	15
2	きたく部 2021 拡張版	大分大学　教育学部　清水　良彦	17
3	IoT による圃場データ収集とその活用	大分大学　理工学部　大竹　哲史	18

オンライン（Zoom） 2021 報告会

実践型地域活動事業のひとこま

■お問い合わせは

おおいた地域連携プラットフォーム

協働事務局事務担当：
大分大学地域連携プラットフォーム推進機構
https://oita-platform.org
〒870-1192 大分県大分市大字旦野原700番地
TEL 097-554-7913　FAX 097-554-6177
cocsuishin@oita-u.ac.jp